

後期日程

本2022

令和4年度入学試験問題(後期日程)

小論文

教育学部
学校教育課程
幼小連携教育コース

— 解答上の注意事項 —

- 1 「解答始め」の合図があるまで問題を見てはならない。
- 2 問題冊子のほかに解答紙1枚と下書き用紙1枚がある。
- 3 解答は横書きとする。
- 4 解答紙を提出すること。
- 5 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

【問】下の文章は、「しなやかな人間を創る教育とは」と題された文章の冒頭部分である。

下線部①「人間に合った教育」について、下線部②「拙速に技術で進めてはいけない」と述べる著者の考えをふまえた上で、あなたの考えを800字以内で述べなさい。

屋久島で野生のニホンザルを、アフリカで野生のゴリラを観察し続けて悟ったのは、子どもたちが成長するには自然の力が必要だということである。ニホンザルにもゴリラにも、それぞれが進化した場所の特徴が身体に埋めこまれている。たとえば、四季の変化の大きい日本で進化したニホンザルは毛がわりをするが、常夏の熱帯雨林で進化したゴリラは年中同じ毛皮をまわっている。そして、ニホンザルの子どもは春から夏にかけて一斉に生まれ、ゴリラの子どもの出生には特定の季節はない。

そういった環境の違いを生物は体で受け止め、それを心の発達にも反映させてきた。人間はゴリラやチンパンジーとともにアフリカの熱帯雨林で進化し、類人猿の生息したことのない草原や寒冷地へと足をのぼしてきた。だから、人間の身体には類人猿と共通する特徴とともに、熱帯雨林の外で生きのびるために発達させた独自の特徴が織りこまれている。それを知ることが、人間に合った教育を考える上でとりわけ重要だと思うのである。

① 類人猿と共通なのは、胃腸が弱く、子どもの成長が遅いということである。人間の子どもには長い間食べ物をあたえて育てなければならないし、一人前になるにはたくさんの人の手助けが必要になる。

類人猿と違うのは、離乳が早く、思春期に成長が加速して心身のバランスが崩れる時期があるということである。人間の子どもはまだ乳歯のうちに離乳してしまい、大きな脳を発達させるために栄養価の高い食物を摂取する。脳の成長が止む思春期に、今度は身体の成長が加速して性差が明確になる。この二つの危なっかしい時期をどう支えるかというのが、子どもを育てるうえで最も重要な課題なのだ。

しかも、この二つの時期に人間の子どもは文化の色に染められていく。離乳期には言葉を話しはじめ、それぞれの民族に固有な衣装を身にまとい、音楽を聴いて育つ。思春期にはそれぞれの文化や伝統を表す行事に参加し、慣習を身につけ、礼儀作法を学ぶ。社会における自分の位置や能力を自覚するのもこのころである。

そういったさまざまな課題をどういう順番で学ばせるのか。だれが、どのようにして。昨今は人工的な環境でなるべく効率的に課題をこなすことが促進されているようであるが、人間の子どもは自然に近い存在であることを忘れてはいけないと思う。人間の身体の歴史は悠久の自然のなかで形づくられ、身体そのものが自然なのだ。子どもたちはまず、自然のなかで自分の身体を知り、自然を取りこみながら自然と調和できる自分を意識していくのである。それを拙速に技術で進めてはいけない。

②

〔出典〕山極寿一(2018)『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』、毎日新聞出版、pp.74-76、より。

※出題に際して、一部抜粋し文章を再構成している。